



炬火を掲げていざ謳う

No.32



我らの泉鳥取

2023年1月16日(月)

編集 泉鳥取高等学校閉校記念事業実行委員会

大阪府阪南市緑ヶ丘1-1-10

<https://www.osaka-c.ed.jp/custom91.html>

平成7(1995)年 阪神・淡路大震災

対岸の神戸が...

平成7(1995)年1月17日午前5時46分、兵庫県南部地震が発生、震源は明石海峡近辺、マグニチュードは7.3、最大震度7という大地震です。

学校の被災状況

泉鳥取高校のある阪南市近辺では震度は4、校舎も若干の被害を受けました。普通教室のA棟、特別教室のB棟ともに2つの校舎がつながっていますが、そのエキスパンションジョイントの床がめくれ、壁にひびが入りました。また、社会科準備室にあった縄文・弥生式の土器(レプリカ)が全て床に落ちて割れ、理科の実験器具にも被害が及びました。ただ、幸いなことに生徒・保護者、教職員を含めて人的被害はありませんでした。

次の日から授業は再開、当日は雨が降っていましたが、2日目には雨がやみました。その折、窓の外を眺めていた生徒が、「関空の向こうの空がかすんでる」と言っていたので見てみると、神戸のあたりが薄曇りになっていました。神戸市で大火災が発生し、その煙で対岸に見えるはずの神戸三宮がかすんで見えないのです。

僕らに何かできへんのかな？ 生徒たちの声

授業を受けていた生徒は、被害を問の当たりにして、ロクに「俺ら何かできへんねやろか?」「普通に授業受けててええん?」と教科担当に訴えていました。今から思えば、泉鳥取高校の生徒が人にやさしい、頼もしい、たくましい人が多いことに感動しました。当時の生徒たちが作った短歌がありますので、ご紹介します。

大地震 今年に入ったばかりで

この先どうなる神戸の人たち

震度七 初めてなのでわからない

その大きさとその恐ろしさ

(17期生 『玉ねぎの産地にできた泉鳥を遠く眺めてめにしみるかな』(国語作品集))より

今から思えば、災害発生時のボランティアに多くの人に参加するようになったのは、阪神淡路大震災からだだと認識しています。なお、教職員も災害復旧に10名以上がボランティアに参加しました。



黒煙を上げる神戸(Chance for Childrenサイトより)

<https://www.osaka-c.ed.jp/custom91.html> からpdf版をダウンロードできます。

職員室前のジョイント。

割れているのが震災の影響

